

西藤島小だより



☆学校教育目標『自主と創意に満ちた人間性豊かな児童の育成』
☆目指す児童像「学ぶ子」「やさしい子」「強い子」
福井市三郎丸1丁目1410 TEL (0776) 22-8820 FAX (0776) 22-6809
<http://www.fukui-city.ed.jp/ni-fuji-e/> E-mail: ni-fu-e@fukui-city.ed.jp

平成29年12月20日発行
No.8
福井市西藤島小学校

メディアって?～学校保健委員会～

11月29日(水)に、すくすくハート委員会(保健)が中心となって、学校保健委員会を開催しました。この学校保健委員会は、特に子どもたちの身体や心、命について考える大変重要な集会活動で、今年も夏休みくらいから準備に取りかかっています。今回のテーマは「メディアが私たちに与える悪影響」です。メディア(テレビ、PC、ゲーム、タブレット、スマホ)は私たちの暮らしに欠かせないものとなってきました。しかし、必要以上にやり過ぎたり、使い方を誤ったりすると、私たちの体に悪影響を及ぼすだけでなく、とくにスマホや携帯ではSNSが原因のいじめや犯罪にまで発展する事もあります。例えば・・・Aさんから手作りクッキーをもらったBさん。Bさんはもらったクッキーがおいしかったので、早速Aさんに返信。BさんはAさんのクッキーがおいしかったことを問いかけ口調で「このクッキーおいしくない(↗)」のつもりで送ったところ、受け取ったAさんは「このクッキーおいしくない(!)」と断言口調で解釈。これがもとで、お互いの関係が気まづくなります。文章で気持ちを伝えるのは、送る前にしっかり吟味する必要があります。



また、自宅周辺の画像をSNSでUPした結果、悪意のある第三者に居場所を特定されるケースもあるということです。本当に怖いですね。

今年、藤島中学校区(藤島中、明新小、日新小、西藤島小)としても、正しいメディア(特にスマホ)の使い方をお家の人と話し合ってもらい、安全・安心な使い方のルール「スマートルール」作りをすることになっています。冬休みを迎えるこの機会に、是非ご家庭で正しい使い方について話し合いをしてみてください。

スポーツは「スマイ輪ING」!



福井県は今年度、小学校低学年を対象に体育の時間に実技指導者を派遣する事業を行っています。本校でも11月30日から12月14日までの中で6日間を選び、「スマイ輪INGスポーツクラブ」の井上指導員に来ていただきました。11月30日(木)の初日は1年生のマット運動「前転(前回り)」です。マット運動は全身を使い、バランス感覚や平行感覚を身につけるためにも、とても大切な運動です。ただ、現代っ子はサッカーや野球、バレーボールなど球技を好む傾向にあり、なかなかマット運動に親しむ機会はありません。

前回りを1年生に指導している一場面を紹介します。(講師)「坂道でみなさんは、おにぎりを落

としました。おにぎりはどうなる？」（子どもたち）「ころがる！」（講師）「じゃあ、坂道でサンドイッチを落としました。どうなる？」（子どもたち）「ころがらない！」（講師）「そう！おにぎりは丸いから、ころがるんだよね。だからみんなもマットで前に回るときには、丸くなるといいんだよ！・・・」そして、丸くなるには目をおへそに向けること、手を頭の上をしっかりとかざすことなどを、1年生にも分かりやすく説明していました。マットに限らず体育は、ともすると模範を見せたり、補助をしたりしながら教えるものと思いがちですが、イメージの沸きやすい説明、明るく笑顔に、ポジティブになる言葉掛けもとても有効なんだと改めて気づかせていただきました。子どもたちも、笑顔で楽しそうにマット運動に取り組んでいました。正に「スマイ輪ING」な授業でした。



フリースポーツコーナー ～挑戦しつづける～



12月7日（木）に本校体育館において、湊小、日新小、西藤島小3校合同での器械運動交歓会が開催されました。この交歓会はこれまで、5、6年生の中の選抜された選手だけの出場でしたが、今年から全員が跳び箱、鉄棒、マットのいずれかの種目に参加することになりました。



器械運動は、もともと古代ギリシア時代、軍事能力養成を目的とした戦技訓練の課目として取り上げられていたのが始まりと言われています。その時代の騎士たちは、上手に乗馬をこなしたり、障害物を乗り越えたりすることが、より戦いに強くなることにつながったのでしょうか。でもそこには失敗への「恐怖」が伴います。より高い技術を身につけるためには、乗り越えなくてはならない壁があり、その壁を乗り越えるためには自分自身の中にある「恐怖心」と闘わなくてはならないのです。なので以前は、器械運動は「克服型のスポーツ」と呼ばれていました。しかしそのイメージでは子どもたち、特に運動の苦手な子どもたちはますます器械運動から遠ざかってしまいます。

今は、より難しい技にも積極的に挑戦できるよう、安心して技に取り組めるようにと、いろいろな補助具があります。また、一気に難しい技に到達するために、むやみやたらと練習を繰り返すのではなく、できそうな段階からステップを徐々にあげていき、目標とする技に近づける指導法も確立されています。そうした中で、子どもたちは楽しみながら自分の技を習得していくのです。

今回、5、6年の子どもたちは、この大会に向けて約1ヶ月前から必死に練習に臨んできました。今できる技から、少し難しい技への挑戦です。上述したように安心して楽しく・・・ではありませんが、やはりそこには恐怖、何度やってもできないことへの悔しさ、失敗を重ねる毎に強まる無力感、不安、本番までへのあせりなど、様々な葛藤があったと思います。

そうして迎えた12月7日。練習以上にうまくできた子もいれば、やっぱりできずに悔しい思いをした子もいます。でも子どもたちにとって大切なのは、本番での「成功」ではありません。本番まで挑戦し続けた心、他人とではなく自分と闘ってきた心、そしてやっぱり器械運動は楽しいと思える心、こうした心が練習し続けてきた子どもたちにとって、一番大切なものだと思うのです。この経験は、将来生きていく上で、もしかしたら自分では気がつかないところで必ず役に立つことでしょう。

今回の器械運動を通して、また一つ子どもたちは成長したことでしょう。